

## アンスティチュ・フランセによる募集

### 2026年度ヴィラ九条山プログラム

#### 一般条件と規則

アンスティチュ・フランセでは、《ヴィラ九条山》2026年度レジデンス・プログラムの募集を開始します。

建築家・加藤邦男氏の設計で1992年に京都・東山の丘の上に建てられたヴィラ九条山は、幅広い分野に跨るリサーチのためのアーティスト・イン・レジデンス施設で、フランスと日本の異文化間対話を促進する使命を担っています。

フランスが有するアジア初のレジデンス施設を舞台に、世界最大級のフランス文化ネットワークであるアンスティチュ・フランセが組織するレジデンス・プログラムであるヴィラ九条山プログラム2026年度の募集は、あらゆる分野のリサーチ及び芸術活動に携わる応募者に開かれています。

ヴィラ九条山のレジデントには、京都、関西地方、さらには日本全国の専門家や大学・芸術・文化関係者と仕事上の関係を結ぶことが求められています。これに当たって、レジデントはヴィラ九条山のスタッフ、日本の大学・文化・学術関係者のネットワークと結ばれた協力関係や日本におけるフランス文化ネットワークに頼ることができます。

このフランス文化ネットワークには、ヴィラ九条山ほかアンスティチュ・フランセ日本の4つの支部（福岡・沖縄、京都・大阪、東京・横浜、ヴィラ九条山）、4カ所のアリアンス・フランセーズ（名古屋、札幌、仙台、徳島）と1つの研究機関（東京）が含まれます。

ヴィラ九条山は、フランスのヨーロッパ・外務省の文化機関です。アンスティチュ・フランセの支部の一つとして活動し、主要メセナのベタンクールシュエーラー財団とアンスティチュ・フランセの支援を受けています。

**2026年度募集の締切り 2025年3月5日 23:59（フランス時間）**

**ただし、250件の応募があった時点で締め切ります。**

## レジデンス・プログラム

ヴィラ九条山では次の3つのプログラムを提供しています：

- ソロ：フランス人か、フランスに5年以上在住している外国人1名によるリサーチ・プロジェクト
- ビノム（2人組）：フランス人か、フランスに5年以上在住している外国人2名による共同プロジェクト
- デュオ：フランス人か、フランスに5年以上在住している外国人1名と日本在住の日本人1名との共同リサーチ・プロジェクト

## レジデンスの 日程と期間

2026年度のレジデンス・プロジェクトは1月から12月末までです。

ヴィラ九条山での滞在期間はプログラムに応じて4ヶ月から6ヶ月の間となります：

- ソロ：4ヶ月から6ヶ月
- ビノム：4ヶ月
- デュオ：4ヶ月

応募者はレジデンス希望時期を申し出ることができますが、選考委員会はこの時期と期間を  
宿舎の利用可能状況や2026年度の活動スケジュールに合わせて調整する権利を有します。

いかなる場合も、滞在を分割したり、翌年度に繰越したりすることはできません。

## 関連分野

ヴィラ九条山では以下の創作分野のアーティストを受け入れています：

- ・ 建築／景観設計／都市計画
- ・ ストリートアート／サーカス／人形劇
- ・ デジタル・クリエーション（デジタルアート、ビデオゲーム、VR）
- ・ 造形芸術
- ・ 映画（アニメ映画／創作ドキュメンター／ビデオアート）
- ・ 美術評論／キュレーション
- ・ ダンス／パフォーマンス
- ・ デザイン／グラフィックデザイン
- ・ 料理研究 / ガストロノミー
- ・ 文学（フィクション／エッセー／児童文学／バンド・デシネ）
- ・ 工芸
- ・ ファッション
- ・ 音楽（クラシック音楽／現代音楽／ロック・ポップスなど／ジャズ）
- ・ 写真
- ・ 演劇
- ・ 科学

デュオとビノムに関しては、アートと科学分野にもご応募頂けます。このカテゴリーに応募するには、上記の芸術分野に当てはまるアーティスト1名と科学者1名によるプロジェクト

が条件になります。人文科学および社会科学は、「アートと科学分野」のデュオ・ビノムのカテゴリーには含まれません。

多分野に跨るプロジェクトの場合には、プロとして認知されている分野で応募するようにしてください。

## 選考基準

応募者のプロとしての経歴評価に加えて、プロジェクトのクオリティと今後の見込みに特に注意が払われます。

選考に当たっては、応募者が日本におけるリサーチ・レジデンスを必要と考える説得性、計画されている仕事の進め方や日本で既に接触のあるコンタクトも考慮されます。

工芸分野の応募者については、特定の技術の習得が必要です。この技術を証明する書類をポートフォリオに添付していただくことも可能です。

さらに、応募者には、ヴィラ九条山のスタッフや他の選出者との定期的な対話を行うこと、日本の専門家や文化・大学ネットワークとのコンタクトを発展させることが期待されます。

## 選考プロセスと日程

選考はいくつかの段階を踏んで進められます：

- ・ 専門家委員会が応募書類を審査し、応募者の予備選考と面接を行います。
- ・ 最終選考委員会が決定を下し、選出者を指名します。委員会の決定は覆せません。

## 結果

- ・ 選出された応募者には、最終選考委員会の終了後、個別に通知が行われます。

- ・ 選出者の発表はアンスティチュ・フランセ、アンスティチュ・フランセ日本／ヴィラ九条山のウェブサイト及びSNSで配信されます。
- ・ 選出者の結果に関しては、アンスティチュ・フランセから公式発表されます。

2026年度募集の締切り	2025年3月5日
予備選考	2025年4月～5月
面接の時期	2025年6月13日～23日
最終選考委員会と結果発表	2025年7月末

## 応募資格

### ○ 職歴

- ・ 上述の分野において創作活動を行なっている者であること。
- ・ 5年以上前からプロとして活動していること。
- ・ レジデンスの全期間中、職業活動の制約を受けないこと。

### ○ 国籍／フランス及び日本における在住

- ・ フランス国籍を有するか、5年以上フランスに在住していること。
- ・ デュオでのヴィラ九条山プログラムに関しては、日本国籍を有し、日本に在住していること。

### ○ 重複

- ・ これまでにヴィラ九条山プログラムに選出されたことがないこと。

- ・ アンスティチュ・フランセの他のプログラムの恩恵を、少なくとも 3 年前から（即ち、2021 年度以降）受けていないこと。

- ・ 同一プロジェクトに関して、フランス文化省地方文化事業局（DRAC）の個別創作援助金（AIC）、ローマ・フランス・アカデミー及びフランス国立造形芸術センター（CNAP）への同時応募が可能です。

これに合格した場合は、これらの助成のいずれか 1 つのみが与えられます。

- ・ 応募が 2 年連続で採用されなかった場合は、新たに応募する前に最低 1 年の期間をあける必要があります。

いかなる年齢制限も課されません。フランス語に習熟していることは、日本人応募者の場合、選考基準とはなりません。ただし、この場合、応募者は英語が話せなければなりません。

ヴィラ九条山の受入条件では、プロジェクトごとに 2 名までしか受け入れることができません。この人数を超えるグループ、アーティスト集団、カンパニーや劇団は本プログラムの対象外となります。

## レジデンスの条件

### ○ 給費条件

ヴィラ九条山のレジデントには、以下の方式に従い、月額滞在手当が支給されます：

- ソロ：選出者には月額 2,100 ユーロの滞在手当が支給されます。
- ビノム：選出者 2 名にはそれぞれ月額 1,600 ユーロの滞在手当が支給されます。
- デュオ：選出者 2 名にはそれぞれ月額 1,600 ユーロの滞在手当が支給されます。

### ○ 渡航条件

アンスティチュ・フランセは、ソロ及びビノムの選出者に関しては、最高 1,400 ユーロ相当の往復航空券（フランス - 日本）を負担します。

デュオに関しては、日本人選出者はヴィラ九条山までの交通費の支給は受けられません。

### ○ 宿泊条件

ヴィラ九条山には64㎡の2層式メゾネット型スタジオ6室があり、それぞれ備品付きキッチン、浴室とシングルベット2台が装備されています。

各選出者にはスタジオ1室が与えられます。

### サポート体制

リサーチの初期段階及び選出者により築かれたコンタクトに応じ、ヴィラ九条山のスタッフは、レジデンスの開始前、期間中及び終了後、個人的支援とリサーチ・プロジェクトの最終段階におけるネットワーキングにより、選出者をサポートします。

さらに、アンスティチュ・フランセのレジデンス部門は、レジデンス終了後、プロジェクトの性質と進捗度に応じ、選出者を様々な文化パートナーに引き合わせるすることができます。

### ○ 共用スペース

・ フローリング仕様の多目的ホールには視聴覚機材（スクリーン5m x 2.80m、ビデオプロジェクター、Mac、マイク及びスピーカーシステム）のほか、調律済みのピアノ1台が装備されています。面積90㎡の多目的ホールは、ダンス、演劇、音楽、上映会や講演会に最適のスペースです。

・ ピエール・ベルジェ・ギャラリー（サロン）では選出者は外部からの訪問者を迎え入れることができます。

・ 読書室には1992年以降のレジデントの作品を取めた書架、レーザープリンター兼スキャナー1台、A3対応インクジェットプリンター1台及びドキュメントスキャナー1台が配備されています。

## ○ 滞在条件

ヴィラ九条山のスタジオは芸術分野のリサーチ活動専用のものです。プロジェクトに関係のない部外者をスタジオに泊めることはできません。近親者を迎え入れたい選出者はヴィラ九条山の外部に宿泊場所を確保しなければなりません。

## 応募

応募書類はオンライン・プラットフォーム IFPROG に提出してください。

- ・ 応募者は初めて登録する場合はアカウントを作成してください：

<https://authentification.institutfrancais.com>

- ・ アカウントの作成ができた後、IFPROG でログインしてください

<https://ifprog.emundus.fr/fr/connexion>

- ・ « Déposer un nouveau dossier » → « Villa Kujoyama 2026 »をクリックしてください。

このインターフェースを通して提出されたプロジェクトのみが審査対象となります。2つ以上のプロジェクトを提出することは許可されておらず、同一の応募者によるものと見なされるすべての応募は、事実上、排除されることとなります。

同一プロジェクトに加わる 2 名の応募者は各自の身元を記入し、それぞれの資料（身分証またはパスポート、写真、履歴書、ポートフォリオなど）を同一の申込書にアップロードしてください。これら資料が添付されていない場合は、応募書類は受理されないこととなります。

ビノムやフランス人と日本人のデュオの場合、2人のうち1人が応募者となります。

第 2 応募者に関する情報は、「プロジェクトリーダー」の見出しの下にある「パートナー」欄に記してください。

## オンライン説明会の実施（フランス語）（任意）

アンスティチュ・フランセはヴィラ九条山とともに、オンライン説明会を開催します。

日時 2025年2月4日（火）

<https://us06web.zoom.us/j/85808936513?pwd=Byd7BZyoF4IJ55uSPzf5VmbXUPDL0r.l>

## 応募書類の構成

各応募書類には以下の情報が記載されなければなりません：

- ・ダウンロードし、必要事項を記入した応募用紙
- ・プロジェクトのタイトルや概要
- ・ 《応募者／アーティスト》の欄には必ず氏名を記入してください。
- ・ プロジェクトの詳細な記述（最大5ページ）：これには、応募の動機、リサーチ・プロジェクトの性質、滞在場所・期間との関連付け、コンタクト済みの機関や人物に関する情報及びプロジェクトの今後の展開。
- ・ 応募者の連絡先を明記した詳細な履歴書（現住所、メール、電話番号、生年月日）。
- ・ 応募者の仕事に精通している人物（専門家、研究指導教授、その他フランスまたは外国の有識者）による複数の推薦状（最大2通）。推薦者は必ず自筆による署名を添えなければなりません。
- ・ ポートフォリオ：場合によっては、ビデオのリンクも含まれます。
- ・ 以下の点を保証する、日付、署名入りの宣誓書（「以上の通り相違なし」と記入）：
  - 一般条件及び規則の内容を理解したこと。
  - 応募書類に記載された作品の作者に相違ないこと（共作者がいる場合はその氏名を明記）。

- 滞在期間中、職業活動の制約を受けないこと。

添付書類のタイトルにはスペースもアクセント記号付きの文字も含まれてはならず、書類のデータ容量は合計 200 MB を超えないものとします。

規則により要求された条件を順守し、締切日を順守した不備のない書類のみが考慮されることとなります。「下書き」状態のままの書類は考慮の対象外です。虚偽の申告はすべて応募無効の結果をもたらします。

サイトが混雑することも考えられますので、これを避けるため、締切日を待たずに応募されることを強くお勧めします。

応募書類が送付され次第、応募者にはメールで受領証が送られます。

応募締切日：2025年3月5日 23:59（フランス時間） / ただし、250件の応募があった時点で締め切ります。

#### 選考委員会

- ・ ヴィラ九条山館長
- ・ アンスティチュ・フランセパリ本部 分野専門家
- ・ アンスティチュ・フランセ 分野専門家
- ・ レジデンス部門担当
- ・ 該当分野 専門家

#### 最終選考委員会

- ・ ヴィラ九条山館長

- ・ アンスティチュ・フランセパリ本部より代表者
- ・ 在日フランス大使館より代表者
- ・ フランス外務省より代表者
- ・ フランス文化省より代表者
- ・ 専門家（2名）

さらなる情報に関しては、アンスティチュ・フランセパリ本部のレジデンス部門担当にお問い合わせください（フランス語・英語）：[villakujoyama@institutfrancais.jp](mailto:villakujoyama@institutfrancais.jp)